

| | |
|---------|---|
| 1.技 術 | 1.1 海水淡水化 |
| 2.事 業 名 | 1.1.7 産油国石油精製用海水淡水化研究協力（オマーン） |
| 3.キーワード | オマーン、RO、海水淡水化 |
| 4.目 的 | <p>オマーン国はアラビア湾の入口に位置しており、湾岸諸国の石油輸送による頻繁なタンカーの往来に伴い、沿岸海水の汚染が進み、油流出の危険も高い状況にある。このようなことから、逆浸透法海水淡水化システムの導入にあたっては、汚染海水の浄化技術の導入が必要である。</p> <p>本研究協力事業は、逆浸透法海水淡水化技術の実用化・普及促進を図るため、最近、我が国で開発された油分除去に対応した膜ろ過式前処理装置と高効率逆浸透海水淡水化装置を組み合わせた、最新の海水淡水化システムの実証プラントを同国に建設し、約3年間にわたる長期連続運転を行い、オマーン国沿岸の海水性状に対応した最適運転条件を研究し、同国での適応性を実証し、併せて、運転研究を通して同国の技術者を育成することを目的としている。</p> <p>平成16年度については、本事業の最終年度であり、下記の研究協力を実施した。</p> <p>(1) 実証プラントの長期連続運転を実施し、その運転データの解析を行い、静的運転条件を明らかにした。</p> <p>(2) 実証試験の結果に基づいて実証プラントシステムの性能評価、経済性評価を実施し、実プラントの設計、運転のための基礎資料を収集した。</p> <p>(3) 油分除去装置の性能解析を行い、設計資料を収集した。</p> <p>(4) 運転実験の結果を基にして運転マニュアル改訂版を作成した。</p> <p>(5) 実証プラントシステムの普及促進を目的として、オマーン人技術者の日本における研修を実施した。</p> <p>(6) 平成16年2月28日に、現地の海水淡水化関係機関の関係者による日オ合同委員会で成果報告を行った。</p> <p>(7) 同日、オマーン側と、最終会議を持ち、事業の成果の確認と、設備の無償譲渡手続きに係る打合せを実施した。</p> |
| 5.参 照 | NEDO |